

私たちにとっての「ある小さな小さな島」の話

2005年の「竹島の日」条例成立によって東アジア各地で起こったできごとは、私たちに地域から世界を考える大きなきっかけを与えました。日韓関係の歴史的な遺産の中で、現実の紛争として発火する要素があるのが竹島・独島問題です。

私たちはこれから子どもを生み、育てるひとりの人間として、この問題が継続していることに不安を感じます。歴史問題や現実の紛争、新聞を賑わす事件や事故、環境、健康問題を考えるとき、自分たちでできることから参画すべきであり、三回目の「竹島の日」を明るい未来を創るために生かそうと思いました。朝鮮半島と日本は、人類の未来を左右する核大国の大きな影響を受ける地域です。日本と、分断国である大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国を長期的未来的な視点で考えたとき、まず私たちはお互いの話をきちんと聴き、相互理解に努め、豊かで持続可能な世界と地域のあり方を総合的に考える必要があると感じました。

そのためにいろいろな立場の人々の考えを共有し、伝えるべきこと、やるべきこと、なすべきことを考える座談会を開きます。この座談会を出発点にして、日本と大韓民国を始め世界の人たちが困難な問題を話し合う場が、朝鮮半島の対岸から生まれることを願っています。

●日時 2月20日(水) 開場 18:00～

●会場 くにびきメッセ 小ホール

●座談会(無料) 18:30～21:30

◆司会

堀江 研次 (財)人間自然科学研究所 研究員

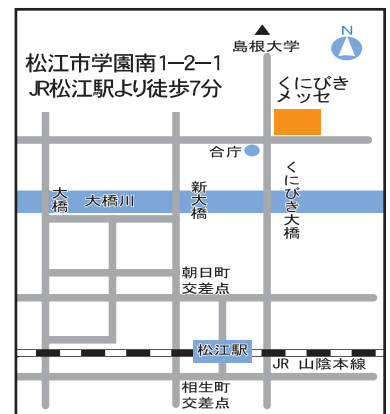
なむ すうじょん 慶熙大学平和福祉大学院
南 受廷 インターシップ生

◆助言者

交易場 修 小説「周藤弥兵衛」著者
「太陽の國出雲」編集者

い ゆんじゆ 韓国出身
李 潤珠 松江市在住主婦

ゆん ひじゆん 島根県立大学卒業
尹 熙竣 松江市在住



第一部 それぞれの人が抱えていること ～東海・日本海、竹島・独島、近代史～

上田 政子 『戦争と私』(神戸と南京を結ぶ会会員・松江市)

・出席者

安田 壽子(女性と子どもの民間支援みもぎの会代表/境港市) 堤 一直(上智大学大学院 国際関係論専攻/東京都)

きむ ちょむく 鄭 睿恩(慶熙大学平和福祉大学院 国際平和学専攻/韓国)

順不同・敬称略

第二部 このままでいいのか? 私たちが伝えるべきこと、やるべきこと、なすべきこと

宮森 健次 『絵本を書くきっかけと出版まで』(「ある小さな小さな島の物語」著者・奥出雲町)

・参加者のみなさんとの話し合い

文責:李 潤珠・南 受廷・堀江研次

申込書

FAXまたはメールでお申し込みをお待ちしています。川中・堀江(E-mail: k_horie@komatsuelec.co.jp)

TEL: 050-3161-2490 FAX: 050-3161-3846

氏名	住所	TEL	FAX	メールアドレス